

事務事業評価シート(平成22年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課		課長名	記入者
		こども未来課		越川昌信	藤本弘之
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度	
病後児保育事業		○ 新規	22 年度	年度	
		継続	H20以前	○ 未定	
事務事業の体系					
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち		
		(基本計画) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	2 笑顔でつつむ、あったかいまち		
		個別計画 多可町次世代育成支援対策推進行動計			
根拠法令・条例・要綱等			事業区分(該当する区分に「○」)		
児童福祉法、同施行令、同施行規則、多可町立保育所条例			○ ソフト事業		
多可町保育の実施に関する条例、同施行規則			施設の維持管理		
事務事業の具体的内容			義務的事業		
病気の回復期にあり、家庭や集団での保育が困難な乳幼児を一時的に施設において保育を実施することにより、保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに、乳幼児の健全な育成を図ることを目的とする			内部管理事務		
			建設・整備事業		
			計画などの策定		
			補助金の支給		
			○ 有		
			無		
			委託		
			全部委託		
			一部委託		
			委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
病後児保育施設	病気の回復期にあり、家庭や集団での保育が困難な児童	病後児の保育を実施する

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>				会計名		一般	会計
細目名	児童措置事業	細目名		細目名			
予算コード	3 2 2 2	予算コード		予算コード			

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23 年度 計画	備 考 (全体事業費など)
総 コ ス ト				4,260	2,857	22年度から実施
コスト の内訳	直接事業費	千円		2,803	2,400	
	所属内間接費					
	人件費			457	457	
	投入人員	人/年		0.050	0.050	
財源 内訳	国・県支出金	千円		1,868	1,600	
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		2,392	1,257		

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 予定	23年度 目標
1	病後児保育事業	病後児の保育を実施 することで	病後児保育の実施回数	回		13	50
2							
3							
4							

(ソフト事業) (B面)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [病後児保育事業]			
成果指標(意図の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 予定(見込)	23 年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
利用件数(延べ)	回		13	50	病後児保育の利用件数(延べ)

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	○ 高い	高くない		把握なし			
		緊急性は	○ 高い	高くない					
		利用者・対象者数は		増加	減少	○ 横ばい			
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない	○ ある	把握なし			
	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○ ない	ある					
		国や県の事業(サービス)との重複は		ない	○ ある				
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○ ない	ある					
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない	○ ある				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		ない	○ ある	把握なし			
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	○ ない	ある					
		他の事業と統合できる可能性は		ない	○ ある	あるが困難			
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		ない	○ ある	あるが困難			
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	○ ない	ある		あるが困難			
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○ ない	ある					
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	ある					
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	ある					
		受益者負担を見直す余地は		ない	○ ある				
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	○ ある	ない					
		前年より成果が上がって		いる	いない	○ 横ばい			
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い	高くない					
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○ いる	いない		測定困難			
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	大きくない					
市場化の 可能性	既に全部委託済		更なる委託化が可能である		○ 委託化の余地があり	委託化は不可能			
	市場化テストの導入について検討する余地がある			市場化テストの導入を検討する余地はない					
改善の可能性			1.改善の余地はない			○	2.改善の余地がややある		
			3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要		

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> 病後児保育事業

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など) H22年度からの実施で利用者数は少ないが、保護者のニーズは高く継続実施の必要が高い。									
担当課長評価									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) サービスの周知に努め、継続実施を図りたい。									
所管評価		1. 重点的に継続	○	2. 現状のまま継続		3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) PRに努め継続していく。									
財政評価		1. 重点的に継続	○	2. 現状のまま継続		3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了			
評価委員コメント									
今後とも、継続して続けられたい。									